

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701095		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム 小春びより2号館		
所在地	青森県三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢坂の下9		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成24年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム小春びより2号館が、地域の一員として認知してもらえるよう、地域の行事やイベントに参加したり、見学をさせていただいている。運営推進会において情報提供された、地域の花植えや資源ゴミ回収等の活動に職員が参加し、地域住民と顔馴染みの関係を築いている。また、今年から合同避難訓練を実施し、消防署、消防団の参加により、災害時の一層の安心感と地域との交流が図られると考えている。利用者の生活や家族、馴染み等を知ることにより、これまでの習慣や家族関係が継続出来るような配慮や工夫をしている。更に、利用者の持っている能力を活かした役割や楽しみを提供することにより、日常生活において生き甲斐のある生活となるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中でその人らしくありのままに、安心して生活出来る第二の我が家」を理念に掲げ、全職員で共有を図り、実践に繋げている。
日頃から利用者の視点に立って業務を行っており、家族や関係者、職員間の意見や気付きを反映させ、利用者の思いを汲み取った介護計画を作成している。また、利用者一人ひとりの意向を把握し、その能力を活かせるよう、状況に合わせて適切に支援しており、利用者の心の声を聴くようなサービス提供に努めている。
共用スペースは皆が快適に過ごせるよう工夫され、居室は一人ひとりの個性に配慮している。
ホームでは、利用者にとって「第二の我が家」となるよう、利用者本意の取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中でその人らしくありのままに、安心して生活出来る第二の我が家」を理念に掲げ、朝礼で唱和し、日々のサービス提供に努めている。	地域交流を理念に掲げ、グループホーム独自の理念を作成している。理念は、地域の求めに応じたものとなっており、日々の引継ぎ時や毎朝の唱和等により職員全員で共有を図り、日々のサービスに活かす取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と繋がりながら生活出来るよう、地域での行事見学や地区の花植え、資源ゴミ収集に地域の一員として参加している。	普段から近隣住民が花を届けてくれる等、ホームに気軽に立ち寄れる関係が築かれている。日頃から町内会の行事への参加や近くの保育園児との交流等その他、グループ全体の夏祭りには案内を出し、多くの地域住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修のファシリテーターと研修生受け入れを行っている。また、実習生を受け入れる際の誓約書を作成し、利用者のプライバシーが保たれるよう配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告や情報交換を行い、メンバーからの意見や感想を聞いている。また、外部評価の結果、改善点も含めて説明し、サービス向上に努めている。	定期的に運営推進会議を開催し、村の情報や地域の要望等を積極的に引き出すように働きかけ、今後の取り組みに繋げる努力をしている。また、親睦を兼ねた交流会を開催する等、委員の率直な意見を引き出す工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、村の担当者が参加している。自己評価、外部評価を提出し、報告している。ホーム独自の広報誌は無いが、グループの広報誌を配布している。必要に応じて村の担当者に相談し、連携に努めている。	村の担当者が運営推進会議に毎回出席しており、新しい情報の提供や他の委員から出された意見への回答等、協力をいただいている。また、必要に応じて、会議での問題や法令に関する相談を行っており、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念、方針を提示している。また、マニュアルを作成し、部署会議にて勉強会を実施し、全職員で拘束しないケアに努めている。	研修や職員間での会議を通して「身体拘束をしない」という方針を周知し、日々のサービスに取り組んでいる。また、マニュアル等の関係書類が整備されており、やむを得ず身体拘束を行う場合には家族に説明し、同意を得て、記録に残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議にて虐待防止についての勉強会を実施し、日々のケアに活かすように努めている。また、発見した場合の対応や報告の流れ等も周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署会議にて勉強会を実施し、全職員が制度について概ね理解している。また、該当者はいないが、必要に応じて対応出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、契約書及び重要事項説明書に基づき説明し、同意を得ている。また、疑問や質問に答えている。退居時には、情報提供書を作成し、退居先に情報提供を行っている。また、利用料金等改定時には利用者や家族に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情受付窓口を明示し、契約時に家族等に説明している。面会時や電話にて、利用者の生活、健康状態、受診時の報告等を定期的に行っている。金銭管理は家族に確認してもらい、サインをいただき、領収書を渡している。	入居時の相談や面会時の声掛け等、利用者や家族が話しやすい雰囲気づくりを行い、意見や要望の把握に努めている。玄関には意見箱を設置している他、ホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、広く意見を収集出来るように努めている。また、出された意見は運営推進会議でも報告し、ホームの運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れに関しては、職員の意見を聞く機会はないが、毎月、部署会議、棟会議を開催し、業務や利用者のケアに関する意見交換を行い、サービスの向上に努めている。また、日常的に報告、相談をその都度行い、運営に反映させている。	ミーティング等を通して、ホームの運営方針や利用者の受け入れについて、職員の意見を聞く機会を設けている。また、管理者は職員一人ひとりの意見を吸い上げて、管理者会議等で話し合い、職員の見解や希望を取り入れるように努めており、その結果についても報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断、職員の自己評価や人事考課を行い、心身の健康状態や勤務の状況を把握している。労働基準法に則った就業規則があり、守られている。資格を活かした職員配置であり、異動時には説明し、利用者にも挨拶をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画を作成し、職員の質の確保・向上に向けた人材育成の方針を示している。事業所独自の研修計画があり、研修受講後には報告書を作成し、伝達講習を実施している。また、研修は計画的に行われており、ケアに支障がないように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会に管理者が参加し、勉強会や各事業所の取り組みを通じて、サービスの向上に努めている。また、同法人との交換研修を行い、交流・連携を図り、職員の育成に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者や家族と面談し、本人のニーズ、身体状況、思い等の把握に努めている。また、事業所の活動内容を説明したり、施設内を見学していただき、安心して利用してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談したり、話を聞く等してニーズの把握に努めている。また、管理者の名刺を渡して、いつでも連絡・相談ができることを説明し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者と家族等にとって何が必要なのかを見極め、当事業所で対応が可能かを検討し、必要に応じて地域包括支援センター等に相談したり、関連の事業所に移行出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の好きな事や得意な事を把握し、それを職員と一緒に楽しめるように努めている。また、利用者に行っていた軽作業等に対しては、感謝の言葉を伝え、共に支え合い、暮らしている者同士であることを認識出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が入居しても、家族との繋がりを断ち切らないよう連絡を密にし、利用者の暮らしぶりや身体状況を報告して、気付きや思いを共有出来るようにしている。また、遠方にいる家族には、電話や手紙で情報を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人が訪ねてくることが年に数回あり、その際にはいつでも立ち寄ってくれるよう話をしている。また、地域での行事や祭り等に参加・見学することで、馴染みのある場所に出掛けたり、知人との交流の機会が持てるよう支援している。	利用者本人や家族から情報収集し、馴染みの関係の把握に努めている。一人ひとりの希望に応じることが難しい中でも、可能な限り個々の思いに対応することとしており、これまで関わってきた人との交流を継続出来るように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルがあった場合には職員が間に入り、フォローしている。また、居室で過ごすことを好む利用者には、孤立しないよう随時訪室し、声掛けしたり、お茶の時間等はホールに来て、一緒に過ごせるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には家族等の相談に応じ、いつでも連絡をくれるよう話している。また、退居先には、利用者の身体状況や暮らしぶり、ケアの方法等を文章にて情報提供し、同じようなケアが受けられるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の言葉、仕草、行動から本人の思いや意向を把握しようと努めている。必要に応じて、家族等から情報を収集している。また、本人の立場に立って考えるよう努めている。	職員は利用者の視点に立ち、日々の業務に取り組んでいる。家族や関係者からの情報を職員間で話し合い、利用者の思いや意向を十分に把握したサービスを提供を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用してアセスメントを行い、これまでの生活や暮らしぶり、サービスに至る経過等を把握するように努めている。また、家族等からも生活習慣等を情報収集し、全職員で統一したケアが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、日々の過ごし方、心身状態や出来る事を把握し、全職員で統一したケアが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の普段の言動や思いを汲み取り、棟会議で職員の気づきや意見を基に話し合い、介護計画に反映させている。また、随時家族等からの意見も取り入れるように努めている他、利用者の状態に変化がある時は、その都度見直している。	家族の意向や関係者の意見等、職員間で情報を共有し、意見や気付いたことを話し合い、利用者本人の思いを汲み取った介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、再アセスメントすることで計画の内容を振り返り、確認をしておき、現状に即した利用者本意の計画となるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の暮らしぶりや様子、身体状況等について具体的に記録している。また、見直し時に活かせるように、介護計画に沿った記録を行い、実践内容を記載して、全職員で共有出来る仕組みとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人暮らしの利用者や家族等が遠方で病院受診が出来ない利用者に対しては、職員が無償で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を図り、イベントや行事等には参加・見学をさせていただき、地域との繋がりを大切にしながら、地域の一員として暮らしていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医や既往歴等を把握し、利用者や家族の希望する医療機関を受診している。必要に応じて認知症専門医、眼科、歯科受診が出来るように支援している。また、家族による受診の際は、連絡票を用意し、かかりつけ医、家族等と情報の共有が図られるようにしている。	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診出来るように支援している。また、受診結果を家族に報告し、今後の通院方法や対応について話し合いをしており、利用者の情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所には看護師の配置がなく、訪問看護ステーションとの連携は図られていないが、系列の老人保健施設の看護師に相談し、協力が得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、利用者の状態を報告している。また、2週間以内は居室を確保出来ることを家族、医療機関に説明している。退院に関しても、家族や医療機関と情報交換し、スムーズな入退院が行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には対応していない事を、入居時に家族等に十分に説明している。また、日常的な健康管理や急変時には、利用者、家族、医療機関とその都度連携を図り、概ね意思統一が図られていると思われる。	入居時に、重度化や終末期の対応を行っていないことを説明して理解を得ており、契約事項にも明記し、ホームの方針を明確にしている。また、日常的な健康管理から早めに利用者の状態を把握し、法人の看護師から助言を得たり、必要に応じて関係機関との話し合いを行いながら、家族も含め、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、災害時対応マニュアルを整備し、全職員が対応出来るようにしている。また、応急手当や救急救命訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を、利用者と一緒に、年2回実施している。今年から消防署、消防団と合同避難訓練を実施している。また、避難経路の確保や消火器等の整備点検を定期的に行い、非常食、飲料水、毛布を用意している。	定期的な訓練の他に、消防団等、地域住民の協力得て、地域ぐるみでの訓練を行っている。また、非常災害時に備えて食料や飲料水、毛布、発電機等を準備している他、消火器等の設備点検を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したり、拒否するような声掛けをしないように努め、プライバシーに配慮したり、利用者の人格を尊重したケアを心掛けている。プライバシーの保護や個人情報の保護については勉強会を行い、棟会議で、日々のケア場面を通して振り返りを行うようにしている。	利用者の言動を否定せず、傾聴する姿勢でサービスを提供している。トイレへの誘導や着脱時等、介助時は十分に利用者の羞恥心に配慮し、声掛け等を適切に行っている。また、日頃から利用者の心の声を聴くように心掛け、日々のサービス提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの能力に応じて、意思決定が出来るような声掛けやセッティングをしている。意思決定が出来ない利用者には表情や反応を読み取り、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者一人ひとりのペースや希望に沿った支援を心掛けている。利用者の希望に沿えない時にはその理由を説明し、了解を得るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みやTPOに合わせた衣類、おしゃれが出来るように支援している。衣類の乱れは、さりげなく声掛けしたり、直している。また、こだわりのある利用者はいないが、希望があれば、日時、送迎等の調整をして出掛けられる用意がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、食べやすく調理したり、別盛や代用品を用意している。職員も一緒に食事をして、会話したり、食事介助等を行っている。利用者の力量に応じて、米とぎや食器拭き等を行ってもらっている。	利用者の好みを把握し、苦手なものは工夫して提供している。準備や後片付けを、利用者一人ひとりの能力を活かせるように一緒に行っており、食事時間は利用者と職員がコミュニケーションを深めるひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分摂取量を把握し、記録している。嚥下機能が低下した場合、食器等を変えたり、調理方法を工夫して、食べやすいようにしている。献立やカロリー等は系列の管理栄養士に相談し、アドバイスを受けることが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に口腔ケアを実施し、利用者一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、また、個々の能力に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	申し送りノート等で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録している。排泄に援助が必要な利用者には、適切な援助用品を検討し、支援している。利用者の羞恥心やプライバシーに配慮するよう心掛けている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日頃の観察から利用者のサインを察知し、トイレに誘導している。現時点ではおむつ使用者はいないが、失禁等に対応するための見直しを行い、適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、食事や水分摂取量、活動量等、個々の状況に応じて便秘にならないよう取り組んでいる。また、下剤はかかりつ医に相談し、使用量・使用頻度を守っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	月曜日から金曜日の入浴日となっているが、利用者の希望に沿えるようにしている。入浴は体調や羞恥心に配慮し、拒否傾向がある利用者には、カレンダーで印をつけて、週2回は入浴してもらうようになっているが、無理には勧めない。	利用者の入浴習慣を把握しており、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入浴の際には利用者の羞恥心に十分に配慮し、楽しく入浴出来るよう、声掛け等を工夫し、適切な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、自由に休息出来るように配慮している。睡眠状態や日中の活動量を観察し、安眠出来るように声掛けして、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を把握出来るよう、処方箋をカルテに綴じている。内服の変更がある時は、連絡ノートにて全職員に周知し、家族にも報告して記録に残している。誤薬や飲み忘れがないようルールを決め、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や習慣、希望を把握し、日々の生活の中で、能力に応じた役割や楽しい時間が持てるように支援している。利用者の嗜好品を把握し、他の利用者にも配慮して検討した上で取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くを散歩したり、畑を見に行き、気分転換が出来るように支援している。また、入浴のない土曜日、日曜日に個別にドライブする等、外出の機会を持てるようにしている。職員では対応出来ない場合には家族に相談し、協力を求めている。	日々の関わりや会話等から、行きたい場所等の希望の把握に努め、身体状況も考慮の上、利用者の声を優先して支援に取り組んでいる。また、買い物や周辺の散策等を日常的に取り入れ、外に出ることで利用者の気分転換に繋がるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望、家族の希望等に配慮し、少額であれば自己管理出来る。また、買い物では、本人が支払うように働きかけている。施設で預かる金額は多額とならないよう家族に説明し、用途に関して領収書を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったり、利用者に電話があれば、会話が出来るよう支援している。また、写真入りの年賀状を作成し、家族や友人に出している。更には、手紙が読めなくなった利用者には代読し、内容を知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に掃除や整理整頓を行い、季節に合った装飾を行っている。温度・湿度に注意し、観葉植物や熱帯魚、ソファ、畳等を配置して、家庭的で居心地の良い空間となるよう配慮している。また、職員の立てる音やテレビ等の音量、室内の明るさは適度で、快適な空間となるよう心掛けている。	職員の声掛けに注意し、利用者が聞き取りやすいトーンで話すように心掛けている。テレビの音量や室内の明るさ、温度はどれも適切で、快適な空間が保たれている。また、クリスマスツリーや手作りカレンダー等が飾られており、季節を感じられるように工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファや畳を置き、横になったり、利用者同士で会話することが出来る。また、廊下には椅子を置き、休める場所もある。更には、利用者同士の関係性に配慮して配置を換える等、環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物を持ってきてほしいと説明をしているが、茶碗やコップ等の小さい物となっている。居室内は使いやすいように、利用者と相談して配置を変えたり、家族との写真等を貼り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者や家族には、馴染みの物の持ち込みが可能であることを説明しており、協力を働きかけている。また、利用者の意向を確認し、一人ひとりの個性に配慮した居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂等は分かりやすく表示し、場所間違いのないよう配慮している。利用者の日常の動線を観察し、職員間で情報交換しており、工夫して、利用者が自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。		